



弊社を代表する製品、

スイッチボックスの決定版

スライドボックスSBOの歩み

昭和四十三年 スライドボックス誕生



●昭和四十五年

ビス穴にセットしてあった金枠取付用ねじをボックス内部に取り付ける事により、ねじを外す手間が軽減される。ねじの長さを長くし、ボックスと壁とのすき間があっても取り付くようになる。

●昭和四十六年

ナット部に透明テープを貼り付け、異物の侵入を防止できるようになる。ボックス側面にVVFケーブルサイズのノックアウトが設けられる。

●昭和五十三年

パネ爪を採用。ビス一本で柱にガッチリ固定できるようになる。側面にノックアウトが追加される。

●昭和五十四年

木ビスを一本添付

●昭和五十五年

透明テープをアルミテープに変更。ボックスアッター(当社金属探知機)にて壁裏でも探知できるようになる。

●平成五年

ノックアウトの形状変更。貫通穴にしてノックアウトを抜く手間がなくなる。



●平成八年

ビスを取り外し易いようにプッシュアップビスキャッチ式に変更される。ノックアウトの形状をマイナストライバーで簡単に抜けるように変更される。ホルソーで壁穴を開けられるよう探知磁石が取り付くようになる。

●平成九年

木ビスをタッピンねじに変更し、軽量間柱にも簡単に組み込めるようになる。

●平成十二年

TLチューブ、CD管がそのまま差し込めるようになる。

●平成十五年

底面全面カットアウトできるようになる。胴縁浮かせ目印が付いたし枠を付ける事により深形に早変わりするようになる。

●平成十六年

PF管が横はめできるようになり、後ろが壁面でも取り付け可能になる。

●平成二十二年

PF管22サイズまで配管できる兼用のノックアウトになる。小判穴ホルソーに対応したセンター磁石を取り付けるためのセンターボスが付く。



2020年現在



これからも使い易さを追求し、進化は止まりません!

施工の多様性に対応すべく、種類豊富に揃えております!細部まで工夫が施されたスライドボックスシリーズを今後ともよろしくお願ひ申し上げます

